

教育広報

県北の教育

発行所

福島県教育庁県北教育事務所

福島市杉妻町2番16号

電話024-521-2813

発行者 渡辺 惣吾

過去を創りかえる教師

県北教育事務所長 渡辺 惣吾

7月31日に、今年度初めて開催される研修会「学級づくり、授業づくりセミナー」を梁川小学校を会場にお借りし実施しました。テーマを大切にしようということで、設定したテーマは、次の3つです。

- 子どもが「知りたくなる」「やってみたくなる」～心を動かす授業づくり～
- 子どもが笑顔で安心して学べる環境づくり
- 優れた意欲、先進的な教育に触れ、教師同士が学び合い、つながり合い、教える意欲を高めるきっかけづくり

教科関係、道徳、学級づくりをはじめ、再生可能エネルギー、プログラミング教育など、計25講座を開設しました。今回講師にお願いしたのは、域内の教科教育、各種教育において優れた実践を行っている22名の校長、園長、教頭、教諭、栄養教諭の先生方です。事務所の指導主事3名も講師を務めました。講師の先生方にはたいへんお忙しい中、これまでの実践をもとに参加者のニーズにあった内容を発表していただくとともに、協議においてもコーディネーター役を引き受けていただきました。それぞれの講座がとても充実した内容となりましたこと、心から感謝申し上げます。また、夏休み中にも関わらず多くの先生方にセミナーに参加していただき、ありがとうございました。

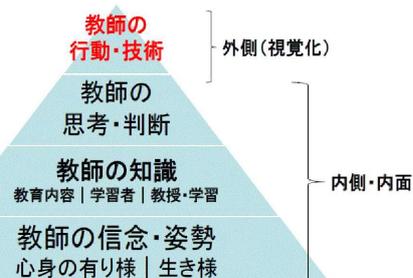
子どもたちの未来にかかわる職務に取り組む私たちは、絶えず自分を振り返り、教師としての力量を高めていくことが求められます。そのために、授業セミナーのような校外での研修、また授業スタンダードでも呼びかけております「互見授業」等の校内研修、自主的研修等が重要になります。それらの研修を通して、私が求めたい教師の姿は、「目の前の子どもの姿、様々な事象を、多面的・多角的、複眼的にとらえ、思考し、判断し、対応できる教師」です。

現在、世の中、また各学校、各教室で起きている様々な出来事、課題等は、簡単な原因と結果のような因果関係では説明できない、様々な要素が複雑に絡み合ったものが多いように思います。できれば、簡単な因果関係でとらえ解決できればよいのですが、なかなかそうはいかなくなっています。とかく専門職やベテラン教師といわれる方々は、これまでの経験をもとに、いとも簡単に様々な事象に対応しているように見えますが、逆にそのような人たちだからこそ、内面では迷ったり、悩んだりしながらこれまでの経験や様々な情報、要素から熟考し、総合的に判断し、対応していると言われていています。

そのような意味からも、教師の専門性を高めていくためには、目の前の子どもの姿、様々な事象を多面的・多角的、複眼的にとらえ、判断し、対応できる力を養っていくことが大切になってくると考えます。そのために私が今年度、初任者研修や経験者研修の講話、冒頭のセミナー等でお話しさせていただいているのが、「過去を創りかえる教師」です。日々の授業、互見授業、また様々な研修を通して自分の実践を理論と照らし合わせ、また、同僚等、多くの視点から意見をいただきながら振り返り、図の「教師の行動を支える諸要素」にあるような教科の知識等のもとより、実践を根底で支える自分の信念や姿勢を見つめ直し、それらをよりよいもの、また、より深いものに創りかえていく。別の言い方をすれば、自分の実践の意味付け、価値付けを行っていく。この繰り返しこそが、教師の専門性を高めていくように思います。

秋深まる季節を迎え、各学校において、日々の授業、互見授業等を通して、過去を創りかえ、教師としての力量を高めようと努力する姿が多く見られることを期待します。

教師の行動を支える諸要素



【出典：現代日本の教師－仕事と役割－】
(放送大学教育振興会)

道徳科 指導と評価の一体化を目指して

□ 各種要請訪問において、様々な授業改善が見られます。

〔その1〕 導入時に、児童生徒に問題意識をもたせようとしている。

- アンケート結果の提示
- 「心に残ったこと」や「考えてみたいこと」の問いかけ
- わかっている(はず)のこのこと、問い返し(「本当の友達って?」「命はどうして大切?」)

〔その2〕 「考える」活動を重視した学習過程を工夫している。

- 中心発問における思考や話し合いの時間の確保
- 思考ツールを活用し、思考を可視化して考えを深める学習の位置付け
- 教師による「問い返し」「揺さぶり」などの追発問

〔その3〕 構造的な板書を工夫している。

- 「何を学ぶか」「何に気付いたか」の明確な位置付け
- 対立する考えの構造的な位置付け
- 思考ツールや、ネームプレート等の活用による、動きのある板書

〔その4〕 児童生徒の学習状況や道徳性にかかる成長の様子を積極的に見取ろうとしている。

- ワークシートを累積して成長を見取ろうとする取組
- 他教科等や家庭との連携も意識した道徳ノートからの見取り
- 授業の中の姿を価値付けた認め励ます評価(うなずく姿、聞き入る姿、笑顔 等)

□ 評価文についての演習を行いました。

道徳科の評価については、何をどのように見取り、どのように記述すればよいのかについて、疑問や不安が大きいところです。そこで、9月12日(水)に実施した「特別の教科 道徳 の実施に向けた地区別研修会」の中で、「道徳科の評価」について、特に、通知票に記載する評価文(所見)について演習を行いました。その一部を御紹介します。

【演習】 次の所見について、改善すべき点をあげてみましょう。

「手品師」の授業で、小さな男の子に誠実に接した手品師について、学級の誰よりも深く考えていました。相手に対して誠実に行動することは正しいことであると理解し、自分も誠実に行動していこうと道徳的実践意欲を高めたことが、すばらしかったです。今後の姿に期待しています。

改善すべき点(例)

- ・「誰よりも深く」・・・他との比較ではない。
- ・「正しいことである」ということは、道徳的価値の理解としてふさわしくない。
- ・「道徳的実践意欲を高めた」・・・専門用語は使わない。
- ・「すばらしかった」は教師の価値観。教師のフィルターを通さない。
- ・「今後の姿に期待」・・・行為の変容のみを期待するニュアンスが感じられる。

この演習の参加者の感想に、次のようなものがありました。

- 評価文に使う言葉について、見直すきっかけになりました。
- 適切でない表現を知って書き方のポイントが分かりました。他の先生にも知らせたいです。
- 子どもの姿で記述することが大切であることが分かりました。
- 評価の記述につながる記録の累積がこれまで以上に大切になると感じました。

今回の演習資料は、域内全小・中学校、県立支援学校に配付されています。各学校におかれましては、ぜひ道徳科の評価について、校内研修を行っていただきたいと思います。

「防災教育で社会に開かれた教育課程の実現を」

福島県では、身の回りで起こる災害や放射線等に関する問題、取組等に目を向けながら、未来を拓く地域社会の一員として、安全・安心な社会づくりに貢献しようとする態度を身に付けるために、「地域と共に創る放射線・防災教育推進事業」を展開しております。県北域内では、福島市教育委員会の御協力により、福島市立佐倉小学校に防災教育実践協力校をお引き受けいただき、地域の特性を生かした防災教育に取り組んでいただいております。

佐倉小学校が位置する福島市荒井地区は、「あばれ川」とも呼ばれる荒川が流れ、活火山である吾妻山や安達太良山が噴火した際にも深刻な影響が出るのが想定される場所です。そのような環境にある佐倉小学校では、各教科・学年での防災教育に関わる指導内容を洗い出し創意工夫ある授業実践を行うとともに、西信中学校区合同避難訓練・引き渡し訓練や、さくら防災デーなど、地域や保護者ぐるみでの防災教育にも力を入れています。

9月21日には、生活科、総合的な学習の時間の授業を公開し、身の回りで起こりやすい災害について理解したり、災害時に自らの命を守る行動について考えたりする児童の姿を、域内の先生方に御覧いただきました。佐倉小学校の地域性を踏まえるとともに、児童の発達の段階に応じた問題解決型の授業をととした児童と教師が共に学ぶ姿に、参会の先生方は防災教育の大切さと魅力を大いに感じ、「自分の学校で」進める防災教育のヒントを得たことと思います。

防災教育は「地元学」と言われます。自分の住む地域を知り、地域の人とのコミュニケーションを大切に、自分と相手の命を守る教育です。学校と地域と家庭が手を取り合って進める防災教育は、社会に開かれた教育課程が具現化された一つの姿と言えます。地域の環境に語りかけ、地域の教育力を生かし、家庭を巻き込んだ、このような防災教育を、県北教育事務所では今後一層支援して参ります。



学校教育課(管理)

「不祥事」ゼロと「学校事故、教職員事故等」の減少を目指して

<1学期の教職員の事故>

交通事故(人身、物損)は3件あり、原因は不注意や思い込みによるものでした。人が横断するはずがない「だろう」、たぶん対向車はこない「はずだ」という「**だろう運転**」「**はずだ運転**」は通用しません。また、歩行者を見落としていたなどの「**見落とし運転**」も事故の原因になっていました。交通事故防止のために職場で声を掛け合い、運転する際には常に細心の注意を払いましょう。

教職員のけがは10件でしたが、その中で部活動指導中と体育の授業中のけがが4件ありました。見本を見せたり、いっしょに運動したりした際のけがです。できると思っても、年齢を経ると体は思っているようには動きません。自己の体力を過信せず運動の指導には十分注意しましょう。

<学校訪問>

1学期の学校訪問では、学校安全管理の状況、諸表簿等を中心に見せていただきましたが、おおむね適正に管理されておりました。特に、サービス倫理委員会がよく開催され、学校日誌へ内容の記載もされておりました。いくつかの課題もありましたので、学校での確認等をお願いします。

- ① 刃物等の本数とナンバリング、使用簿の作成
- ② 転倒する可能性のあるロッカー等の転倒防止策

<サービス倫理委員会取組状況>

1学期に報告いただいた、サービス倫理委員会の取組状況の中から不祥事防止に向けて工夫した取組を3つ御紹介します。

- ① 不祥事防止スローガンを募集し、最優秀のものを職員室に掲示する。
 - ② 「危険予知、回避トレーニング」のコンテンツを使用する。
 - ③ 懇親会の冒頭で飲酒運転絶対無・セクハラ絶対無を期すための寸劇を行う。
- 今後も不祥事防止のために、全教職員が一丸になった取組の推進をお願いします。



地域学校協働本部事業「地域学校協働活動事業」

8月4日(土)に大玉村の夏の大きなイベントの一つ「おおたま夏まつり～おおたまコミュニティフェスタ～」が開催され、たくさんの人で賑わいました。「おおたまコミュニティフェスタ」は地域コミュニティの再興を目的に、商工会青年部が中心となって今年度から始まった取組で、中学生も関わりました。会場には、大玉中学校美術部の生徒が作成したポスターが貼られ、夏祭りのムードを高めています。また、大山小学校合唱部OGで構成されたあだたらの里合唱団による歌声や大玉中学校吹奏楽部による演奏が会場を大いに盛り上げていました。MCは大玉中学校放送委員会の3名が務めました。担当した中学生からは、「自分が地元の祭りを盛り上げているような気がした。」「やりがいがあった。祭りで司会ができてよかった。」との話が聞かれました。こうした子どもの地域に貢献する活動が、「地域に役立つことができる」「自分にも地域での役割がある」などの子どもの自己有用感を高めることを確認できました。



地域でつながる家庭教育応援事業「親子の学び応援講座」 (川俣町PTA連絡協議会)

【講演】 「子どもの自己肯定感を高める親・教師の接し方」

【講師】 福島県学校教育相談員 山本和宏氏

社会情勢の様々な変化により、いじめや不登校などの問題が顕在化し、子どもたちの自己肯定感の形成に及ぼす影響が懸念されています。そのような問題に対応する取組を各家庭で行っていただけるように、域内4地区のモデル連合PTAで、「自己肯定感の形成」をテーマにした講座を実施しています。

第1回の講座を、8月1日(水)に、川俣町PTA連絡協議会で開催しました。講師の山本氏から、自己肯定感の形成のために親や教師が留意すべきことを、ポイントを絞って分かりやすく説明していただきました。時にマジックを交えながらのユーモアあふれる山本氏の講演に、参加者は、うなずいたり、笑みを浮かべたりしながら、聞き入っていました。アンケート結果などから、今回の講演内容を、参加者一人一人が自分のこととして受け止め、それぞれの家庭や学校で生かしていこうとする意識の高まりをうかがうことができました。



学校・家庭・地域連携サポート事業「第1回放課後子ども教室研修会」

8月7日(金)福島市吾妻学習センターにおいて、第1回放課後子ども教室研修会を開催しました。放課後子ども教室推進事業に関わるスタッフのほか、放課後児童クラブのスタッフなど、76名が参加しました。概要は、次のとおりです。

1 講話及び演習：「子どものほめ方、叱り方～感情トレーニング」

講師：桜の聖母短期大学生涯学習センター講師

岡田 友子 氏

2 情報交換：「放課後子ども教室等の成果や課題」



【参加者からの声】

- ・ 「愛情をもって叱る」をこれからの活動で実践していこうと思います。発達障がい児童を支援していますが、いろいろなことが起きます。褒めながら乗り越えていこうと思いました。
- ・ 情報交換では、他市町村の放課後子ども教室の状況や取組が聞けて、とても良かったです。いろいろな放課後子ども教室を視察してみたいと思いました。